

“勲章を受章して”

2023年春の叙勲において、日本分析化学会では、次の4名もの先生が瑞宝中綬章を受章されました。まことに喜ばしい限りです。

小熊幸一先生（千葉大学名誉教授）

尾崎幸洋先生（関西学院大学名誉教授）

酒井忠雄先生（愛知工業大学名誉教授）

舟橋重信先生（名古屋大学名誉教授）

そこで、編集委員会では受章のご感想や近況についてのご執筆をお願いすることとし、過日ご依頼申し上げましたところ、小熊幸一先生と尾崎幸洋先生から原稿を頂戴することができました。先生方のご高配に感謝すると共に今後の益々のご健勝をお祈り申し上げる次第です。

「ぶんせき」編集委員会

瑞宝中綬章を受章して

千葉大学名誉教授 小熊 幸一

瑞宝章は国及び地方公共団体の公務などに長年にわたり従事して功労を積み重ね、成果を挙げた人を対象としている。筆者の場合は、通産省工業技術院東京工業試験所（東工試）に1年半、及び千葉大学に39年半勤務したが、在職中はこのような榮譽に浴する日の到来を夢にも思わなかった。

東京教育大学の3年生までは高校教師を目指して教職科目を履修していたが、4年生になるとともに研究職を目指すことに気が変わり、修士課程修了のち東工試に就職した。しかし、配属された部署は試験所の名残をとどめており、研究的雰囲気はやや欠けていた。そのような折、卒業研究のご指導を頂き、千葉大学工学部へ教授として転出されていた黒田六郎先生から「助手として採用したい」とのお誘いを受け、二つ返事で千葉大学へ転任した。

教育面では、ことある度に恩師をモデルとして学生に接するように心がけた。研究面では、多様な分離法を駆使した分析法を開発し、実試料への適用を試みた。去る7月29日には、研究室の卒業生及び知人の方々に受章祝賀会を開催して頂き、数十年の歳月の経過を超えてもなお元学生・知人の皆さんと親しく会話を楽しめる幸せをかみしめた。恩師および先輩の方々、学会でお世話になった皆様、卒業生諸君に厚く御礼申し上げます。



瑞宝中綬章を受章して

関西学院大学 尾崎 幸洋

令和5年春の叙勲に際しまして瑞宝中綬章の栄を賜りました。これも長年にわたって分析化学会の皆様よりいただきましたご指導ご厚情のおかげです。なぜ私がということは正直よくわかりませんが、いろいろな場所、分野を渡り歩きながらも“分光少年”を貫けたのがよかったと思います。私は大阪大学蛋白質研究所で博士課程を終えた後、カナダ国立研究機構（日本の理研に相当）で2年半勤め、そのあと東京慈恵医科大学に8年間勤務しました（共同利用研究部分析機器室）。さらに39歳で関西学院大学に移り、29年間そこで過ごしました。理学部系から出発し、医学部、理学部系と移りました。私は30歳代を過ごした慈恵医大での8年間は、私のその後の研究に非常に大きなプラスであったと思っています。医学の世界にどっぷり浸り、何もかも新しい経験でした。何より重要なことは、元々物理化学が専門であった私が分析機器室に属し、分析化学を学ぶとともに大学院生に分析化学を教えたということです。以後今日に至るまで分析化学/物理化学ハイブリッドを貫いています。この点がもともとはたいして独創性のなかった私にいくばくかの独創性を与えたと思います。近赤外分光法と出会ったのも慈恵医大時代です。関学に移ってからは、“Top among the Top”をモットーに学生や研究員と楽しく研究を進めました。おかげで研究室には外国人も含め多くのモチベーションの高い仲間が集まり、遠紫外-紫外可視-近赤外-赤外-遠赤外/テラヘルツ（+ラマン）とシームレスに分子分光化学の分野をつなげることができました。このギャップのないつながりは次々と新しいアイデアを生み出しました。

これまで実にいろいろな方々にお世話になりました。恩師、先生方、共同研究者、尾崎研メンバー、学生諸君に深く御礼申し上げます。

